

# 日本プラスチック工業連盟 4カ年計画「2021～2024年度」

**【最重点実施項目】**

- ・ (環境)プラスチック資源循環戦略の強力な遂行、社会実装化
- ・ (総務)プラスチックイメージアップ
- ・ (規格)日本からの主体的・積極的な主張発信

**I. ビジョン:** 当連盟は、プラスチック工業に関わる団体および企業を会員とし、それら会員の利益のために、プラスチック業界、なかでもプラスチック加工業界に求められている重要課題の解決のために活動する。

・プラスチック樹脂製造業、プラスチック加工業および関連団体等組織間の協力関係の絆を強化し、プラスチック工業の健全な発展に寄与する。

・プラスチックに関する正確な情報を社会に発信するとともに、社会の要請を的確に捉えてプラスチック業界に反映することにより、社会に貢献する。

・海外、特にアジアの業界との協調により、プラスチック工業の発展と社会貢献に寄与する。

**II. 基本的な業務分野**

1. 総務・環境部会

- ① 安全: 環境・安全に関し、法規制動向、社会情勢を捉え、政府機関および関係団体との協力を図りながら、プラスチック産業界の最適対応を支援する。
- ② 広報: プラスチック産業界の正確な情報および社会の要請に対応したプラスチックに関する情報を適切な方法を用い提供する。
- ③ 統計: 継続的にプラスチック産業界の国内生産、販売および貿易について実態を明らかにすることにより、今後のプラスチック産業の方向付け等に寄与する。

2. 規格部会  
プラスチックに関する国際標準化活動において、日本の主体性を発揮するとともに、日本産業規格の効率よい整備、運営に寄与する。

3. 事務局  
財政基盤を強化し、適正運営に努める。

**III. 外部環境分析**

1. 経済情勢

- ・ 不透明感続く情勢、コロナウイルスの影響、米国新大統領の政策、日本の首相交代、米中対立、中国経済成長の動向、原油価格・為替の動向、英国EU離脱、
- ・ 業界の動向
- ・ シェール玉の動向

2. 社会情勢

- ・ SDGsの浸透
- ・ 資源循環型社会形成
- ・ プラスチック3R+Renewal、海洋プラスチック問題、レジ袋有料化、化学品管理強化、食品容器包装関係PL本格運用
- ・ ESG投資の拡大
- ・ コロナの影響による「新しい日常」
- ・ 気候変動防止
- ・ 2050年カーボンニュートラル
- ・ 東京オリンピックの開催?

3. 規格関係情勢

- ・ ISO重点課題
- ・ プラスチックのリサイクル関連、持続可能な発展、気候変動、エネルギー効率と再生可能エネルギーの活用、等
- ・ 経産省標準化制度
- ・ 新市場型標準化制度
- ・ 重点テーマ: 次世代自動車、ロボット、AI、等

**IV. 現計画からの課題**

1. 総務・環境部会

- ・ プラスチック資源循環戦略に基づく各WG活動の強化
- ・ 海洋プラスチック問題で宣言活動100%達成
- ・ プラスチック漏出防止の対策強化

2. 規格部会

- ・ 継続的な規格提案
- ・ 会員の標準化への理解深化と積極参加

**V. プラスチックのイメージ調査結果**

- ・ 「身近なもの、役立っている」の基本的な有用性の認識は高いレベルで維持
- ・ 「環境へのやさしさ、安全性、資源の有効利用」で消費者の評価が大きく低下
- ・ 分別収集してリサイクルする重要性は高く認知
- ・ サーマルリカバリーへの賛同は多数派を維持
- ・ 循環型社会への貢献は顕著に悪化
- ・ ポイ捨てが海洋プラスチック問題に繋がるとの認識は大幅に拡大
- ・ リサイクルされたプラスチックの購入で、積極的な消費者層とそうでは無い層が拮抗する状況
- ・ バイオプラスチックを用いた製品で大幅な価格上昇を許容しない意見が大多数
- ・ 特徴、利用法の認知は概ね向上
- ・ プラスチックになる原油の割合を実際より大きく考えている意見が大多数

**VI. 内部環境分析**

- ・ 職員の高齢化
- ・ キーパーソンの高齢化、後任の育成

分野	課題・目標	具体的取組
総務・環境部会	環境・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境・安全問題への積極的参画</li> <li>・ プラスチック資源循環戦略に基づく循環型社会形成に向けた取組みの推進、各WG(再生材利用、PET、PS、バイオプラスチック等)での活動強化</li> <li>・ リサイクル推進のための新たな仕掛けの提案と実行</li> <li>・ 海洋プラスチック問題の宣言活動の深化</li> <li>・ ベストプラクティスの収集と水平展開、セミナーの継続開催</li> <li>・ カーボンニュートラル実現のための方針策定および実施案の検討</li> <li>・ 行政・アカデミア・NPO/NGO・国内外業界団体との連携継続</li> <li>・ プラスチックに特化した化学物質管理セミナーの継続開催</li> <li>・ 業界に影響する法制化等に対する外部への意見表明</li> </ul>
	広報・国際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プラスチックのイメージアップ</li> <li>・ 使用済みプラスチックを「資源」として認識</li> <li>・ プラスチックの有用性のアピール</li> <li>・ 国際協調と発信</li> <li>・ 海外プラスチック産業界団体との交流継続によるプラスチック情報入手</li> </ul>
	統計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 循環型社会形成に関連した輸出入把握</li> <li>・ シェール玉の影響把握</li> </ul>
規格部会	市場獲得のための国際標準化開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際標準化活動のアクティビティ維持</li> <li>・ 幹事国業務の着実な実施、国内委員会活動の充実</li> <li>・ 定期的担当(国際幹事、国内事務局)を見直し、業務マニュアルを活用する</li> <li>・ 新規ISO規格開発テーマ、計画的な発掘・提案</li> <li>・ プラスチックのリサイクルに関する日本主導の新規規格開発推進</li> <li>・ TC61、TC138技術会議にて新規テーマ状況を確認、提案の働きかけ</li> <li>・ TC138国際会議並びにTC61国際会議の今後の日本開催の継続的な準備</li> <li>・ 日本開催について、概ね8年に1度開催することに従い準備</li> <li>・ 重要なSCまたはWGのリーダーシップを取得するための準備</li> <li>・ 国際議長やコンビナーの適任者の有無およびISOの状況の定期的な確認、好機であると判断した場合の取得の行動</li> <li>・ 会員、委員の標準化への理解の深化</li> <li>・ TC61、TC138技術会議等で説明・教育を実施</li> <li>・ 国内委員会、会員団体にて計画的にJIS制定・改正を実施</li> <li>・ JIS定期見直しの確実な実施、TC61、TC138技術会議での委員への働きかけ、着実なJIS改正の実施</li> <li>・ 各SC委員会でのJIS制定・改正の計画立案し、計画に沿ったJIS作成</li> </ul>
	ISO(及びIEC)でのプレゼンス維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標準化業務の円滑な遂行</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 財政基盤強化</li> <li>・ 4カ年計画のローリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規参入者の積極的勧誘および再入会要請</li> <li>・ 期末にローリングを行う</li> </ul>

4カ年計画「2021年度～2024年度」 取り進めイメージ

▼ 計画

分野	具体的な取り組み	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
環境・安全	・プラエ連 プラスチック資源戦略実行 再生材利用推進-WG PET-WG PS-WG バイオプラスチック-WG	検討テーマ絞り込みと 実行策の提案 (全WG共通) → 実行	▼中間 取りまとめ 実行	▼中間 取りまとめ 実行	▼中間 取りまとめ 実行	▼最終 取りまとめ 実行
	・プラスチックに特化した化学物質管理セミナーの開催	フォロー → 準備 → ▼実施	フォロー → 準備 → ▼実施	フォロー → 準備 → ▼実施	フォロー → 準備 → ▼実施	
	・海洋プラスチック問題に関する取組 海洋プラスチック問題への取り組み宣言運動推進 優良取り組み事例の収集と表彰	宣言運動推進 事例収集 → ▼表彰	事例収集 → ▼表彰	事例収集 → ▼表彰	事例収集 → ▼表彰	
	行政・アカデミア・NPO/NGO・国内外業界団体との連携強化 日化協・LRIへの協力			連携推進 連携推進		
	樹脂ペレット漏出防止対策の徹底	リーフレット作成・配布				
	海洋プラスチック問題セミナー開催	フォロー → 準備 → ▼実施	フォロー → 準備 → ▼実施	フォロー → 準備 → ▼実施	フォロー → 準備 → ▼実施	
総務・環境部会  広報・国際	・新たな広報活動の検討・実行 ・プラスチックの有用性アピール アピール方法再検討(映像の活用含む)					
	新小冊子(スポーツ素材)	小冊子「スポーツとプラスチック」検討				
	既存小冊子増刷・改訂	(随時)				
	・プラスチックのイメージ調査				準備 → 解析	
	・消費者団体との懇談会	準備▼フォロー	準備▼フォロー	準備▼フォロー	準備▼フォロー	
	・プラスチック教育に関する企画・実行 工場見学会の企画・実行	準備▼フォロー	準備▼フォロー	準備▼フォロー	準備▼フォロー	
	全国中学校理科教育研究会での教材紹介	準備▼フォロー			準備▼フォロー	
	・アジアのプラスチック関連情報入手・発信 極東懇(韓国、台湾)	準備 → 開催	情報交換	事務局会合準備▼フォロー	準備▼報告	
	CPPIA, CPCIF					
	・欧米のプラスチックの関連情報の入手・発信 Global Plastic Alliance(プラスチック及びサステナビリティに関する国際会議)	準備▼報告	準備▼報告	準備▼報告	準備▼報告	
Asia Plastics Forum	準備▼報告	準備▼報告	準備▼報告	準備▼報告		
統計	・シェール玉の影響解析(アメリカの輸出入統計) ※次期4カ年計画から、カーボンニュートラルの影響確認?			継続		

4ヵ年計画「2021年度～2024年度」取り進めイメージ

分野	具体的な取り組み	2021年	2022年	2023年	2024年
規格部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>幹事国業務の着実な実施、国内委員会活動の充実                      ー定期的に担当(国際幹事、国内事務局)を見直し、業務マニュアルを活用する</li> <li>新規ISO規格開発テーマ、計画的な発掘・提案                      ーTC61,TC138技術会議にて新規テーマ状況を確認、提案の働きかけを行う</li> </ul>	担当見直し 国際会議 技術会議 技術会議 ▼リサイクル関連テーマ実施	担当見直し 国際会議 技術会議 技術会議 ▼テーマ継続実施	担当見直し 国際会議 技術会議 技術会議 ▼テーマ継続実施 ▼新規テーマ調査	担当見直し 国際会議 技術会議 技術会議 ▼新規テーマ実施
	プラスチックのリサイクルに関する日本主導の新規規格開発推進				
規格部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>TC138国際会議並びにTC61国際会議の今後の日本開催の継続的な準備                      ー日本開催について、概ね8年に1度開催することに従い準備</li> </ul>	▼継続準備	▼継続準備	▼継続準備	▼継続準備
	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要なSCまたはWGのリーダーシップを取得するための準備                      ー国際議長やコンビナーの適任者の有無およびISOの状況の定期的な確認、好機であると判断した場合の取得の行動</li> </ul>	判断	判断	判断	判断
	<ul style="list-style-type: none"> <li>会員・委員の標準化への理解の深化                      ーTC61、TC138技術会議等で説明・教育を実施</li> </ul>	準備▼フォロー 準備▼フォロー	準備▼フォロー 準備▼フォロー	準備▼フォロー 準備▼フォロー	準備▼フォロー 準備▼フォロー
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内委員会、会員団体にて計画的にJIS制定・改正を実施                      ーJIS定期見直しを確実にし、TC61、TC138技術会議にて委員に働きかけて、着実にJIS改正を実施する                      ー各SC委員会では、JIS制定・改正の計画を立案し、計画に沿ってJIS作成を行う</li> </ul>	委員会 委員会	委員会 委員会	委員会 委員会	委員会 委員会
	<ul style="list-style-type: none"> <li>会費検討WGで詳細検討</li> </ul>	→	→	→	→
	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規参入者の積極勧誘及び、再入会要請</li> <li>4ヵ年計画のローリング</li> </ul>	→	→	→	→